

## FARE 経堂 I・II が「2020 年度グッドデザイン賞」を受賞

FARE 経堂 I・II が、このたび 2020 年度グッドデザイン賞(主催：公益財団法人日本デザイン振興会)を受賞しました。建物を分節し3つのヴォイドに面するように居室を配置し、住戸の中央に耐力壁を設け構造的かつ計画的な合理性を目指した結果、特に「2つの異なる外部を持つ居場所があることは、空間が細分化されたとしても住む楽しみを広げるように思える」として高く評価されました。

- 製品名称：FARE 経堂 I・II
- 製品概要：都内に建つワンルーム賃貸集合住宅。敷地は駅前通りに面しており、集合住宅と住宅が混ざり合ったエリアに建っている。この計画では建物の中央部に偏心の少ない耐力壁を集約し、それを取り囲む空間とが1対となつてひとつの住戸となる。水廻り空間を取り囲むコの字形の居室は3面が外部と面し、光と風が自然に入り、多様な暮らしを創出する。
- デザイナー：AIUEO STUDIO 株式会社 代表取締役 佐々木純也  
ito.+伊藤教司建築設計事務所 伊藤教司



- デザイナーからのコメント  
プランに連動するように中央に集約させた耐力壁が建物の偏心を少なくし、外周部に構造躯体がなくなることで外皮が薄くなり、面積以上の広がりを感じることが出来る。耐力壁によってゆるやかに分節された奥行のある内部空間は、家具などの配置により様々な場所が生まれ、ひとつながりになったり、それぞれに分かれたりと、多様な暮らしが可能となる。中央に集約させた耐力壁とキャンチスラブによって建築的な束縛から解放された外皮には自由な開口が設けられ、構造的にも視覚的にも軽やかな外周部が実現している。
- グッドデザイン賞審査委員による評価コメント  
コンパクトなワンルームの場合、水回りを片側に寄せてできるだけ大きな一体的な空間をとろうとするのが常であるが、このプロジェクトでは敢えて構造壁で囲まれた水回りのコアを真ん中にして、2つの居室空間分断している。一見、不合理にも思えるが、2つの異なる外部を持つ居場所があることは、空間が細分化されたとしても住む楽しみを広げるように思える。また、外壁が乾式の薄い壁であるところも、外部との連続性を高めているように見える。どれくらい工法としての合理性があるかがより明確になれば、さらに可能性が認められるだろう。
- グッドデザイン賞ウェブサイトでの紹介ページ  
<https://www.g-mark.org/award/describe/50842?token=BEWqEkyH9>

## グッドデザイン賞とは

1957年創設のグッドデザイン商品選定制度を継承する、日本を代表するデザインの評価とプロモーションの活動です。国内外の多くの企業や団体が参加する世界的なデザイン賞として、暮らしの質の向上を図るとともに、社会の課題やテーマの解決にデザインを活かすことを目的に、毎年実施されています。受賞のシンボルである「Gマーク」は優れたデザインの象徴として広く親しまれています。

<http://www.g-mark.org/>



このプレスリリースに関するお問い合わせ先

AIUEO STUDIO 株式会社 TEL : 03-5774-0709 E-mail : info@aiueo-studio.com